

本データは、記入のポイント・現地調査票の基本情報・1階平面図・2階平面図・自由記入用の5ページ構成になっています。**B4サイズ(原寸)でプリントアウト**をお願いいたします。別冊の【現地調査記入マニュアル】を参考にして内容をよく理解された上でご記入下さい。

必要事項の記入

- ・氏名・住所（郵便番号から）・電話番号は、楷書ではっきりと記入して下さい。
- ・建築確認図面や完了検査済証の有無・工事写真の有無・被災履歴・増改築等の履歴は補強計画に役立つ他、より正確な診断を行う上で重要な項目です。必ず聞き取り等により確認・記入して下さい。
- ・地域係数Zは、該当する係数に 印を付けて下さい。
- ・多雪区域に指定されている地域は積雪深をご記入下さい。当てはまらない場合は、該当無しに 印でチェック。
- ・形状割増係数は、木造部1階・2階の短辺長さの当てはまる寸法に 印を付けて下さい。
- ・土台を含む床下木材の含水率は、含水率計を使用し記入して下さい。
- ・基礎圧縮強度は、テストハンマーの示した数値を換算表にてコンクリート強度に変換して記入して下さい。
- ・当組合は、室内外・小屋裏・床下の調査を基本としております。

「基本調査」

【上部構造の診断】

- ・【竣工年】：建築年度をご記入下さい。年号等と築年数に食い違いがある場合は年号等を優先します。
- ・【ジョイント】：使用されている主な柱のスパン（柱間隔）をご記入下さい。
- ・【外壁材】：使用されている主な材料1つにチェックをして下さい。
（外壁材が2種類以上存在する場合は、平面図にその範囲と材質を明記して下さい。）
- ・【筋かい】：『有』の場合にはその方向のほか、端部接合金物の有無にチェックを入れて下さい。
- ・【建物重量】：屋根の種類によって判断しチェックをして下さい。
（2種類以上ある場合は原則として重量が重くなる側で判断して下さい。）

軽い建物：石綿スレート・鉄板葺き
重い建物：桧瓦葺き
非常に重い建物：土葺瓦屋根

但し、指針編P27にあるように、左記仕様と著しく異なる場合は実状に合わせて安全側に設定する等の構造的な判断が必要となる場合があります。

- ・【接合部】：築年数、図面、小屋裏・床下調査、旧金融公庫の利用等で総合的に判断して下さい
接合部：平成12年建告1460号に適合する仕様、N値計算による仕様、構造計算された仕様
接合部：山形プレートVP、かど金物CP-T・CP-L、込み栓仕様。
接合部：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等（構面のうち通し柱に挟まれた部分）
接合部：ほぞ差し、釘打ち、かすがい等。
- ・【床仕様】：接合部に同じ。
床仕様：合板（想定床倍率1.0以上）
床仕様：火打ち+荒床（想定床倍率0.5以上1.0未満）
床仕様：火打ち無し（想定床倍率0.5未満）

【地盤・基礎の診断】

- ・【地盤】・【地形】付近の地盤調査図、地盤図、地名、現地調査、住民の見聞等で判断し、チェックして下さい。
『施されている対策の程度』にも該当する場合にはチェックして下さい。
- ・【基礎形式】目視や鉄筋探知機等を使用し、チェックして下さい。状態もチェックして下さい。
無筋コンクリートの場合、床下換気口隅角部の0.3mm程度以下のひび割れを「軽微なひび割れ」とします。

「老朽度の調査」

築10年以上の場合は『築10年以上』の欄に部位が存在し、調査できた項目の数字に『存在点数』の欄に を付けて下さい。

築10年未満の場合は『築10年未満』の欄を使用して下さい。この際斜線の部分に劣化事象がある場合には、『築10年以上』の欄を使用して下さい。

劣化事象が確認された場合には『劣化点数』の欄の数字に を付けて下さい。

注) 劣化低減係数は建物全体に影響します。

「診断書作成にあたっての必要事項」

- ・【戸袋裏倍率】戸袋裏の材質を確認し、チェックをして下さい。
- ・【小屋裏面積算入】小屋裏収納がある場合のみ、ご記入下さい。（天井高1.4m以下）
- ・【一階構造】建物一階が木造なのか、鉄骨・RCなのかチェックをして下さい。
- ・【柱生成】柱位置が不明の場合のみチェックをして下さい。その際、部屋の出隅・開口両端に柱が生成されます。（極力柱の位置を特定できるように調査を行って下さい）
- ・【補強設計サービス希望】希望する場合は組合員専用ホームページをご覧ください。

平面図の記入

柱位置：柱へ、通し柱に ○ を付けて下さい。通し柱が無い又は不明の場合は、上下階がわかるよう図面の下の数字と左のローマ字へ1箇所 をして下さい。

開口マーク：開口マークを記入して下さい。〔マ〕〔ハ〕〔ゼ〕。

耐力壁：耐力壁は必ず太い線で記入して下さい。

手すりや構造的に耐震要素でない壁の場合は細い線で記入して下さい。

無開口壁の長さが、筋かい1は90cm未満、面材は60cm未満の場合、それらの壁を耐震要素とは評価しません。また、補強不可能の壁には[×]を記入して下さい。

筋かい：筋かいの表記は下図のように筋かいが入っているサイズ・方向・範囲を明記して下さい。
（同寸(90×90) 1・2つ割(45×90) 2・3つ割(30×90) 3・大貫(15×90) 4）

戸袋：半壁・戸袋位置を記入して下さい。半壁は耐力壁には含まれません。

部屋名称・材質記号：平面図内に部屋名と材質記号を記入して下さい。

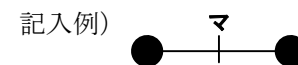
部分的に材質が異なる場合は、材質と範囲を図面にしっかりとご記入下さい。

各部屋の材質は平面図内の「材質記号一覧」より記号で記入して下さい。

重要 筋かいの記入例(サイズ・向き・範囲)

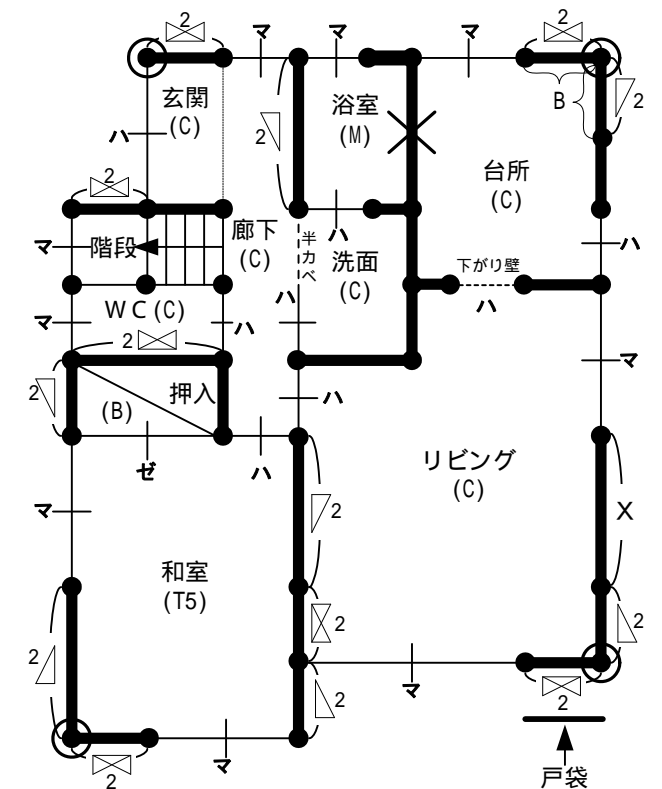


重要 開口部の記入についての注意



建物外周部の開口部には、
・窓開口であれば「マ」
・掃出開口であれば「ハ」
・全開口であれば「ゼ」
と記入して下さい。

注)「窓開口」は開口寸法1200mm以下、
「掃出開口」は垂壁高さ360mm以上、
上記に該当しない場合「全開口」とします



注意：□太四角枠内が未記入の場合は診断書の作成が出来ません。必ず記入して下さい。

日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

現 地 調 査 票 2012年改訂版

□ 代行(自社案件)

現地調査日

年

月

日

■基本調査（該当する項目に☑チェックをして下さい）

上部構造の診断		地盤・基礎の診断	
竣工年	S・H 年 月（築後 年）	地 盤	施されている対策の程度
モジュール	mm	□よい・普通	
外壁材	□木ずり下地モルタル □土塗(記号:T)	非常に悪い (埋立地、盛土、軟弱地盤)	□ 表層の地盤改良を行っている □ 杭基礎である □ 特別な対策を行っていない
	□窯業系サイディング □トタン		
	□金属サイディング □羽目板貼り		
	□他()		
筋かい	□ 有 端部接合金物 あり	地 形	施されている対策の程度
	□ 有 端部接合金物 なし		
	□ 無		
建物重量	□ 軽い(石綿スレート・鉄板葺等)	がけ地・急斜面	□ コンクリート擁壁 □ 石積 □ 特別な対策を行っていない
	□ 重い(棧瓦葺)		
	□ 非常に重い(土葺瓦屋根等)		
床仕様	□ I 合板	基礎形式	状 態
	□ II 火打ち＋荒板		
	□ III 火打ちなし		
柱頭・柱脚接合部	□ I（平12年建告1460号又は構造計算に適する金物）	鉄筋コンクリート基礎	□ 健全 □ ひび割れが生じている
	□ II（山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓）		
	□ III、IV（ほぞ差し、釘打ち、かすがい等） 構面の両端が通し柱の場合はⅢとしますので、 通し柱を必ずご記入下さい。	無筋コンクリート基礎	□ 健全 □ 軽微なひび割れが生じている □ ひび割れが生じている
		□その他の基礎（ブロック基礎など）	
※地盤・基礎は、上部構造の評価に直接は含まれないが、地震時に注意すべき点を注意事項として指摘する。			

■老朽度の調査（該当する項目の数字に○を付けて下さい。）

部位		材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数
				梁端	以上	
屋根葺き材		金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ	2	2	2
		瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落			
樋		軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落	2	2	2
		縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落			
外壁仕上げ		木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽	4	4	4
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れ			
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れ			
		モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落			
露出した躯体			水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害	2	2	2
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽		1	1
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れ			
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れ			
		外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離			
		床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い		1	1
内壁	一般	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビ	2	2	2
	浴室	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れ	2	2	2
		タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害			
床	床面	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴り	2	2	2
		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴り		1	1
	床下		基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害	2	2	2
合 計						

診断依頼者基本情報

氏 名	ふりがな		
住 所	〒		
電 話	(自宅)		
	(携帯)		
年 齢	才	性別	男 ・ 女
職 業			
家族構成	配偶者 有・無 / 子 供 人 総世帯人員 人		

■診断書作成にあたっての必要事項

住宅金融公庫融資	<input type="checkbox"/> 利用無し <input type="checkbox"/> 利用有り
戸袋裏倍率	□戸袋有(□算入(仕上有) □不算入(仕上無)) □戸袋無
小屋裏収納面積算入	小屋裏収納 □有 □無 小屋裏収納高さ＝ m(内法高さの平均) ※高さの記入がない場合は1.4mとします。
一階構造	□ 木造 □ 鉄骨・RC
柱 生 成	□柱を自動生成する
補強設計サポート希望	
□ 希望する □ 希望しない	
希望する場合は、組合員専用ホームページより別紙「一般診断法 補強設計申込及びヒアリングシート」を「現地調査票」と一緒にFAX下さい。	

■意見意向等の調査

建築確認	□図面有り・□図面無し	工事写真	□写真有り・□写真無し
被災履歴	□地震 □火災 □水害 □無 □その他 (規模・状況)		
使用履歴	□増築 □改築 □補修・補強 □その他 (規模・状況)		
【その他、及び備考】 ●地震地域係数 Z (0.7 / 0.8 / 0.9 / 1.0) ●多雪区域 (m/該当しない) ●形状割増係数 1 階短辺長さ (4m未満 / 4m以上6m未満 / 6m以上) 2 階短辺長さ (4m未満 / 4m以上6m未満 / 6m以上)			

■劣化等の調査

■劣化度に関する特記事項
・土台含水率(%)
・基礎圧縮強度(N/mm ²)
・
・
・

事務局使用欄			
タイプ		担当	物件コード

診断書作成FAX送信先
048-224-8380
埼玉事務局 TEL:048-224-8316

会 社 名	
I D	
電 話 番 号	
(会社)	
(携帯)	
調 査 担 当 者	
ネームプレートNo.	

基本情報

注意 ① : 平面図の中には必ず部屋名(玄関・ホール・廊下・洋室・和室・リビング・ダイニング・キッチン・浴室・押入 等)と材質記号をご記入下さい。

注意 ② : 記入に不備がある場合は、診断書を作成することが出来ませんのでご注意下さい。

1階 平面図

方位

↓こちらをご活用下さい

記入チェック

☐建物外周線(細線)

☐柱位置(●印)

☐通し柱位置(●)

☐開口マーク
窓:マ 掃出:ハ 全開口:ゼ

☐耐力壁(太線)

☐筋交い記号・サイズ

☐半壁・戸袋

☐部屋名称・材質記号

☐全体の最終チェック

△

Y

↑

A

B

C

D

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

X

→

診断依頼者氏名

氏名

ふりがな

■内壁材質記号一覧

材質	壁基準耐力	記号
木ずり下地モルタル	2.2	M
構造用合板(厚7.5mm以上)	5.2	G
石膏ボード(厚9mm以上)	1.1	C
ラスボード(厚7mm以上)	1.0	LB
土塗り壁 厚40～50mm	2.4	T5
土塗り壁 厚50～70mm	2.8	T7
土塗り壁 厚70～90mm	3.5	T8
土塗り壁 厚90mm以上	3.9	T9
合板 (厚:3mm以上)	0.9	P
合板 (厚:3mm未満)	0	B
戸袋裏:		
補強不可壁	—	X

※上記の表にない項目に関しては、空欄に【材質・壁基準耐力】を追加して下さい。また記号は崩さずはつきりとご記入下さい。記号がない場合には非耐力壁とみなします。

会 社 名

ID

電 話 番 号

(会社)

(携帯)

調 査 担 当 者

ネームプレートNo.

一階平面図

※ 通し柱が無い又は不明な場合は上下階が分かるよう、数字とローマ字に○を付けて下さい。

注意 ① : 平面図の中には必ず部屋名(玄関・ホール・廊下・洋室・和室・リビング・ダイニング・キッチン・浴室・押入 等)と材質記号をご記入下さい。

注意 ② : 記入に不備がある場合は、診断書を作成することが出来ませんのでご注意下さい。

2階 平面図

方位

↓こちらをご活用下さい

記入チェック

☐建物外周線(細線)

☐柱位置(●印)

☐通し柱位置(●印)

☐開口マーク
窓:マ 掃出:ハ 全開口:ゼ

☐耐力壁(太線)

☐筋交い記号・サイズ

☐半壁・戸袋

☐部屋名称・材質記号

☐全体の最終チェック

△

Y

↑

A

B

C

D

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

→

X

※ 通し柱が無い又は不明な場合は上下階が分かるよう、数字とローマ字に○を付けて下さい。

診断依頼者氏名

氏名

ふりがな

■内壁材質記号一覧

材質	壁基準耐力	記号
木ずり下地モルタル	2.2	M
構造用合板(厚7.5mm以上)	5.2	G
石膏ボード(厚9mm以上)	1.1	C
ラスボード(厚7mm以上)	1.0	LB
土塗り壁 厚40～50mm	2.4	T5
土塗り壁 厚50～70mm	2.8	T7
土塗り壁 厚70～90mm	3.5	T8
土塗り壁 厚90mm以上	3.9	T9
合板 (厚:3mm以上)	0.9	P
合板 (厚:3mm未満)	0	B
戸袋裏:		
補強不可壁	—	X

※上記の表にない項目に関しては、空欄に【材質・壁基準耐力】を追加して下さい。また記号は崩さずはつきりとご記入下さい。記号がない場合には非耐力壁とみなします。

会 社 名

ID

電 話 番 号

(会社)

(携帯)

調 査 担 当 者

ネームプレートNo.

二階平面図

基礎伏図

※自由記入欄です。基礎伏図・梁伏図・立面図などの追加図面やメモ帳としてご活用ください。(事務局へのFAX送信は不要です)

△

D

T

S

R

Q

P

O

N

M

L

K

J

I

H

G

F

E

D

C

B

A

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

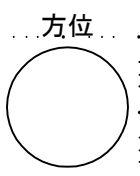
26

27

28

Y

X



診断依頼者氏名	
氏名	ふりがな

会 社 名	
I D	
電 話 番 号	
(会社)	
(携帯)	
調 査 担 当 者	
ネームプレートNo.	

自由記入

※ 通し柱が無い又は不明な場合は上下階が分かるよう、数字とローマ字に○を付けて下さい。